

平等院庭園における植物風景

平等院は、四季折々の花で有名だ。春に訪れると桜を楽しむことができる。境内では、しだれ桜、吉野桜、山桜など、さまざまな品種が育つ。藤棚が3つあり、阿字池沿いにある最も壮大なものは樹齢280歳だ。花の最も長い房は、長さ1メートルを超えて成長し地面にほぼ届くほどにまでなる。豪華な藤の房は紫色の滝のようだ。

平等院は、平等院でしか栽培されていないユニークな種類の蓮でも有名だ。この蓮の花は、1999年の阿字池の発掘中に地層で発見された小さな蓮の種から派生したものだ。鳳凰堂の阿弥陀仏像の後ろの壁には、この蓮の花とまったく同じように見える蓮の花びらが描かれている。さらに、仏教浄土の宝池とよく比較される阿字池の南東側には、美しい睡蓮が生えている。そして、庭の発掘中に室町時代の地層でツバキの種が発見された。種が芽を出し、2003年に最初の花が咲いた。また、藤の花が咲くのと同一時期に咲き始める2種類のツツジ、平戸と霧島を楽しむことができる。サルスベリは夏にみられ、紅葉は秋にみられる。